



新年のご挨拶

院長 坪井 知正

新年あけましておめでとうございます。

昨年の南京都病院ニュース新年号に年賀文を書いていた 1 年前には、世界や日本がまさかこのような事態に陥っていようとは想像すらできませんでした。昨年 2 月以降は、一般社会や個人的生活が、新型コロナウイルス一色に染まりました。自分が現役の医師をしているうちに未知の病原体によるパンデミックなど起こりようがないと楽観していたのですが。

ただ、歴史をひも解けば、細菌感染であるペストはこれまでに 3 回パンデミックを引き起こしており、1 回のパンデミック期間が 100 年間から 500 年間もあったということです。ウイルス疾患であるインフルエンザが引き起こしたスペイン風邪は、第一次世界大戦最中の 1918 年から 3 年間流行しています（実際は 1918 年 3 月にアメリカから流行が始まったようです。2 ヶ月後には日本でも大流行しています。第 3 波まで 3 回流行がありました）。今回のコロナウイルスも発生して 1 ヶ月で世界中に急速に拡散しました。飛行機等による人の移動の速さが影響しているようです。

新型コロナウイルスも、これから長い時間をかけて（10 年以上でしょうか）、ただの風邪の原因ウイルスの一つとなっていくのだと思います。幸いに有効なワクチンができそうですので、年に数回のワクチン接種でしのいで行ける日が近い将来に訪れるのではないかと期待しています。

ただし、ワクチンは感染自体をなくすことはできず、症状を軽減するだけであることは知っておく必要があります。従って、ワクチンができる前も後も、大きな流行を防ぐためには、公衆衛生学的手法（マスク、手洗い、3 密をさける行動パターンなど）が重要です。今回のコロナウイルス感染が拡がり始めた当初は、WHO（世界保健機関）やアメリカの CDC（アメリカ疾病予防管理センター）は、マスクの有効性に疑問を呈し、世界に（特にアメリカやヨーロッパで）、マスクをしないことに対する免罪符を与えてしまい、大変罪は深いと思います。同時に、アメリカのトランプ大統領も、彼の軽薄な知性と行動により、十万人以上のアメリカ市民の命を奪ったことは明白であり、強く糾弾されるべきです。

マスクは自分がウイルスにうつらないためにも重要ですが、他者にうつさないためにも重要です。フランスの知の巨人と呼ばれる、ジャック・アタリ氏は、マスクをつけることに関して、究極の自利利他的行為であるとして、「自らが感染の脅威にさらされないためには、他人の感染を確実に防ぐ必要があります。他国が感染していないことも、自国の利益になります。利他的であることは、ひいては自分の利益となるのです。利他主義は最善の合理的利己主義に他なりません。」と述べています。

これからはしばらくの間は、最大限の親切心と優しい気持ちを持って、お互いを気遣いながら、生き延びて行けたらと思います。皆様にとって、今年が少しだけ良い年でありますよう、心から願っています。

当院での嚥下内視鏡検査のご紹介

副院長 佐藤 敦夫

当院では多くの神経難病の患者さんが治療を継続されています。しかし治療にもかかわらず、原疾患の進行に伴い嚥下障害をきたす方も沢山おられます。可能な限り経口摂取を続けることは、生活の質を維持するのに大切なことですが、無理に経口摂取にこだわり続けると、誤嚥性肺炎を繰り返したり食事摂取量の低下から栄養不良に至ったりすることもあります。

嚥下内視鏡はそのような患者さんの嚥下機能を評価し、食形態の工夫や嚥下リハビリで対応が可能なのか、それとも主となる栄養摂取方法を経管栄養などに切り替える時期に来ているのかを判断するのに必要な検査です。

2014年より、胃ろう造設時に嚥下内視鏡での嚥下機能評価が必要となり、耳鼻科医のいない当院でも嚥下内視鏡検査を行うことが必要となりました。呼吸器内科医の私がたまたま嚥下内視鏡の講習を受けておりましたので、その頃から細径気管支鏡を用いた嚥下内視鏡を担当しております。

健康な状態であれば、食べ物を口に含み、咀嚼し、嚥下することは、意識せずに行うことができます。ところが、手が思うように動かなければ、食べ物を口に運ぶことは出来ません。歯がない、唾液が出ない、舌の麻痺や失調があるなどの状態では咀嚼により十分な食塊形成が行えなくなり、口腔内の食塊を効率よく咽頭に送り込むことが出来なかったり、送り込まれた食塊がばらけてしまったりします。咽頭に送り込まれた液体や食塊を嚥下する際、嚥下反射が遅れたり、不十分であれば誤嚥を生じます。また嚥下筋群の萎縮により嚥下圧が低下すると、今度は嚥下後に残渣が咽頭に残り、嚥下後に再開された呼吸時に残渣を誤嚥する原因となります。

当院の嚥下内視鏡検査では、着色水、ゼリー以外にも、実際に食べている食事形態を含んだ様々な形態の検査食を栄養士が準備します。嚥下内視鏡の結果を担当の言語聴覚士と細かく評価し、凝集性、付着性、粘度の面からどの形態の食事を最も安全に食べていただけるのかを決め、栄養士にその結果を伝え食事を提案しています。

咀嚼により十分な食塊形成が行えない場合は、食事形態をペースト食、軟菜などに変更し、低下した咀嚼機能でも食塊形成が行えるようにすることが有効です。また、嚥下反射が遅れる場合には液体にとろみをつけることで、誤嚥を軽減することができます。神経難病の患者さんの多くは嚥下圧の低下をきたしており、食塊の粘度が高くなると咽頭にへばりついた食物が嚥下したのちに残ってしまうことが多くなります。こんな時には固形物の嚥下後に液体を飲んで洗い流してからまた食べてもらう交互嚥下法や、食塊の粘度を下げるような食事内容を検討します。

嚥下内視鏡検査を始めて5年が経過しました。日本の高齢者の増加に伴い誤嚥性肺炎の患者さんの増加が指摘されています。呼吸器内科医の多くは、多少誤嚥しても咳により誤嚥したものを咯出できれば問題なく、むしろ寝ている間に唾液を吸い込んでしまうことが多くの誤嚥性肺炎の原因だと考えています。「その原因は大脳基底核の虚血性変化から生じる睡眠時の咳反射、嚥下反射の減弱である。」というドグマが信じられています。しかし実臨床において、誤嚥性肺炎を繰り返す患者さんの嚥下機能や咳反射について検討する機会は乏しいのが現状です。当院では言語聴覚士、栄養士、看護師、医師など多職種で摂食嚥下チームを作り活動しております。肺炎を繰り返す方、嚥下に問題を感じている方がおられましたら是非ご相談ください。

『消防訓練』を実施しました

職員一同

11月6日（金）、院内で消防訓練を行いました。

今回は夜間に西4階病棟器械浴室より火災が発生したという想定のもと、消火器や消火水栓を模擬使用した消火活動、消防署への通報や、その後の職員召集及び入院患者の避難誘導（担送・護送・独歩）について、総勢34名の職員が役割分担し行いました。

訓練終了後には城陽消防署より、火災の危険性やその対応についてご指導もいただきました。当訓練で学び経験したことを活かし、万全の対応が出来るよう、今後も職員一同努めていく所存です。



令和2年度結核研修会を開催しました

経営企画室長 地域医療連携室長補佐 宮澤 純一

去る11月21日（土）に当院主催の結核研修会（医師向け）を開催いたしました。新型コロナウイルス感染防止の観点から、集合研修とはせずWEB研修の形をとりました（Cisco Webex Meetingsを使用）。当日は25名の先生方にご参加いただくことができました。

講演内容は以下のとおりです。

- 徳永診療部長：結核の感染診断と潜在性結核感染治療
- 佐藤副院長：疫学と治療、発生時の具体的対応
- 游放射線科医長：結核の画像

当院としましても初めてのWEB開催となりました。参加者が目の前にいるわけではないので、実施者側としましては講演中も手ごたえを感じにくく、不安もございましたが、実施後のアンケートでは「現地に行かずに同等の濃密な講義研修を受けることができ大変よかった」「今後もWEB研修を希望します」とWEB開催に対し、前向きなご感想を多く頂きました。例年とは違う形となりましたが、研修会を開催することができたことは良かったと思います。

新型コロナウイルスが収束する見込みは少なく、WEBでの研修開催が今後もしばらくは続くかと思えます。より良い研修を今後も提供していけるよう工夫を重ねながら取り組んでいきたいと思えます。

地域医療に力を傾けておられるみなさまをご紹介いたします

些細なことでも相談できる、そんなクリニックを目指します

酒井クリニック

内科

呼吸器内科

小児科

院長 酒井 茂樹 先生



2020年10月に、城陽市寺田で酒井クリニックを開院させていただきました。南京都病院では2011年より9年間勤務させていただき、在職中はたくさんの方々のご指導・ご助力のおかげで、医師として多くの研鑽を積むことができました。このまま南京都病院で職をまっとうしたい気持ちも

あったのですが、かねてから考えていた地域の医療に貢献したいという思いもあり、ご縁のある城陽の地でこのたび開業させていただきました。

開院にあたり、南京都病院の坪井院長からいただいた「自利利他」「親切な医師を目指して努力せよ」の言葉を胸に刻み、地域の皆様が安心して受診できるような、暖かいクリニックを作っていきたいと思っております。スタッフ一同、力を合わせて精進していきますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

■ 京都府城陽市寺田樋尻29-7
■ TEL 0774-54-5900

診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
9:00~12:30 (受付12:00まで)	●	●	/	●	●	●	/
13:00~15:30	▲	/	/	/	▲	/	/
16:00~19:00 (受付18:30まで)	●	●	/	●	/	/	/

■ 休診日 日曜日、祝日

■ 水曜午前は南京都病院で外来勤務
(予約診療のみ)

▲ 13:30から15:30は予約診療のみ
(予防接種、禁煙外来など)



安心して療養生活を送ることが出来るよう支援します

ナーシングステーションスイート

訪問看護

訪問看護師として数十年勤務して、一時離職した私たちが、やっぱりこの仕事が大好きで、生涯、一訪問看護師でありたいと令和元年7月に開所致しました。

その後同じ思いの仲間も加わり、現在4名で活動しています。利用者様が住み慣れた自宅で、穏やかに生活出来るように、病状の変化に早く気付いて対応し、不安が軽減出来るような看護を提供し続けたいと思っています。

現在、山城南部地域で当事業所から遠方への訪問に伺うことが多く、病状が進行している方や、医療依存度の高い方が自宅に居たい、家族と過ごしたいという思いを叶えるお手伝い出来る事が、とても幸せでやりがいを感じています。南京都病院に通院されている利用者様の訪問には、主治医の先生方、地域医療連携室の担当者様と、これからもより一層、連携をとらせて頂けたらと思います。



■ 京都府城陽市寺田袋尻27番25
■ TEL 0774-34-7577
■ FAX 0774-34-7977

■ 営業日：月曜日～金曜日
(土・日・祝も相談いただければ対応可能)

■ 営業時間：9:00～17:30

■ 訪問エリア

城陽市・宇治市・久御山町・井手町
宇治田原町・京田辺市
(その他、京都府南部地域にお住まいの方も、お気軽にご相談ください)



地域医療連携室 医療社会事業相談員の紹介

医療社会事業相談員(MSW) 西村 由香子

当院、地域医療連携室の医療社会事業相談員が昨春より増員され3名となりました。新しい風が入り、皆が初心に戻り奮闘しております。

当院の特色として、一般呼吸器疾患や肺結核・神経難病等の患者さんが入院・治療に来られます。り患をされると、その疾患を受け入れながらの生活が始まります。中には身体的・精神的な障害や高齢・貧困などの問題をかかえて生活をされておられる方もおられます。

そんな患者さんやご家族のサポート役として私たちが存在しております。私たちは安心してその方らしい生活が継続できるよう相談・助言を行い、多職種と連携を取りながら支援をさせていただきます。

また、必要であれば患者さんが暮らしておられる地域とも連携を図ります。

地域医療連携室に常時、医療社会事業相談員がおりますので、お気軽にお声かけください。

(地域医療連携室直通電話番号：0774-52-0191)



部署紹介「医事課」

経営企画室長 宮澤 純一

医事課では医療事務全般を担当しております。正面玄関を入って右側に受付があり、その受付とその中に私達医事課職員がいます。

来院された患者さんを最初にお迎えするのが私達ですので、病院の顔としてよい雰囲気でお迎えすることができるよう、笑顔・親切をモットーに丁寧な対応を心がけております。来院されたみなさまが安心して当院を利用して頂けるよう、医事課職員スタッフ一人一人が患者さんの立場に立ち行動できるように日々努めています。

受付の奥では、外来患者さんや入院患者さんの診療費の計算をしております。診療報酬制度は非常に内容が多岐にわたり、また複雑な知識を求められます。診療費を正確かつ適正に計算できるよう緊張感を持って業務に臨んでおります。

今年度は新型コロナウイルスの蔓延もあり、感染予防対策として入口にサーマルカメラを設置し体温を確認するとともに、患者さんに直接お声掛けをして体調チェックをしております。面会は原則禁止としており、患者さんやご家族さまにはご不便をおかけしておりますが、ご協力のほど何卒よろしくお願いたします。

発熱外来について

副院長 佐藤 敦夫

当院でも11月2日より平日9時から16時まで、発熱外来を開設しております。

ドライブスルー形式が基本でCOVID19抗原検査、インフルエンザ抗原検査のみを行います。

事前予約制となっておりますので、直接の来院はご遠慮願います。

予約受付時間は8時45分から12時30分です。

かかりつけ医からの予約

発熱症状などがあり、かかりつけ医がインフルエンザ抗原検査、COVID19抗原検査が必要と判断された場合、かかりつけ医の先生に予約を電話でおとりいただき、その時間に来院下さい。

ご本人からの予約


発熱等があり、直接当院での検査を希望される方は、まず当院発熱外来センターに電話でご相談下さい。当院での検査・診療が可能な場合にはその場で予約させていただきますので、その時間に来院下さい。

インフルエンザ抗原の検査結果は当日直接お知らせします。COVID19抗原検査は翌日までに、ご本人と、かかりつけ医の先生に電話にてお知らせいたします。

自家用車で来院いただき、到着されましたら病院の代表番号に電話連絡下さい。お車に職員がうかがい、車内で検査をさせていただきます。

自家用車で来院が難しい場合は、発熱待合にてお待ちいただき、検査場にて検査いたします。

交通のご案内




● 近鉄京都線 新田辺から 京阪宇治バス約15分
● JR学研都市線 京田辺から
● JR奈良線 山城青谷から 徒歩20分

*...各駅より
送迎車あり

診療科のご案内

● 内科	● 脳神経内科	● 呼吸器内科
● 消化器内科	● 循環器内科	● 小児科
● 外科	● 整形外科	● 呼吸器外科
● 皮膚科 (入院のみ)	● リハビリテーション科	● 放射線科
● 心療内科 (入院のみ)	● 歯科 (入院のみ)	



独立行政法人国立病院機構 南京都病院

(当院は在宅療養あんしん病院に登録しています。詳しくはかかりつけ医にご相談ください)
〒610-0113 城陽市中芦原 11 番地
TEL.0774-52-0065 FAX.0774-55-2765
時間外緊急時 0774-52-0642
URL <https://minamikyoto.hosp.go.jp/>

地域医療
連携室

電話受付時間の延長について
平成30年12月1日から、申し込み受付を19時まで延長させていただきます。
電話受付時間
8:30~19:00 月~金(土・日・祝日休み)
TEL: 0774-52-0191 (直通)
0774-52-0065 (代表)
FAX: 0774-58-0270
予約状況を確認し、その場で受診日時をお返事いたします。
なお、お時間を要する場合は折り返しお返事させていただきますので、ご了承ください。
E-mail: 407-renkei@mail.hosp.go.jp